

2024年度 鳴門市ドイツ館 ドイツ館開館30周年記念 板東俘虜収容所講座 & 新収蔵品展

🇩🇪 板東俘虜収容所講座

板東俘虜収容所は、第一次世界大戦中に多くのドイツ兵捕虜を収容していました。捕虜たちは様々な文化活動を行い、その一部は現在も鳴門市ドイツ館に保存されています。本講座では、こうした歴史を振り返りながら、主に収容所での生活や捕虜たちの文化活動について掘り下げます。

10月5日 (土)
13:30~15:00

板東の捕虜たちと日本語学習

講師：シュトライヒ・ダリオ (ドイツ館 職員)

板東俘虜収容所に収容された捕虜の多くはスキルや知識を向上させることに熱心で、技術を磨いたり、新しい知識を求めて本や講演を通じて、勉強したりしました。彼らがいた板東の風土についての情報を知ることができる講演内容も、現地の言葉についての講座もありました。本講座では、去年ドイツ館が保管する資料に加わってきた「日本語の口語入門」を中心に、捕虜が出版物などで見せた日本語への理解について考えます。

10月12日 (土)
13:30~15:00

ドイツ兵捕虜の製作品展覧会

講師：森 清治 (ドイツ館 館長)

四国霊場第一番札所霊山寺と板東公会堂で開催されたドイツ兵捕虜たちの製作品展覧会。彼らはこの展覧会で何を成し遂げようとしたのか、また会場を訪れた日本人は、彼らの作品を見てどのように感じたのか。当時の目録や写真から読み解いていきます。

10月19日 (土)
13:30~15:00

捕虜収容所で発行された新聞

講師：川上 三郎 (徳島大学名誉教授・前ドイツ館館長
鳴門市ドイツ館史料アドバイザー)

板東収容所では、収容所新聞『ディ・バラッケ』が捕虜たちにより執筆、印刷発行されていました。こうした収容所新聞は板東にとどまらず、全国の収容所でも存在したところがありました。また当時のヨーロッパ各地の収容所でも同様でした。そこで、それらの新聞の印刷方法や対象とする読者、記事の内容など概略を、『ディ・バラッケ』と比較しつつ検討してみたいと思います。

参加方法

申込不要・参加費無料

場所

鳴門市ドイツ館 1階大会議室

鳴門市大麻町桧東山田 55-2

🇩🇪 新収蔵品展

会期 10月2日 (水) ~ 10月31日 (木)

場所 鳴門市ドイツ館 2階企画展示室

【開館時間】 9:30 ~ 17:00 (入館は 16:30 まで)

【観覧料】 大人：400円 小人 (小・中学生)：100円 / 常設展と共通

🇮🇹 板東俘虜収容所特別講座のお知らせ

日時 11月23日 (土) 13:30 ~ 15:30

場所 鳴門市役所 2階大会議室

13:30 ~ 14:00 板東俘虜収容所と戦間期の美術 — イタリア人とドイツ人の視点

講師：長谷川 純子 (ドイツ館 学芸員)

14:00 ~ 15:30 板東俘虜収容所のイタリア人 — なぜ「味方」が収容されているのか

特別講師：土肥 秀行 (東京大学 文学部 准教授)

